

「第2回公開ヒアリング」に関する傍聴者の御意見と傍聴者の質問に対する回答など

※今回の更新で、回答欄の<小島座長の回答>を追加しました。

氏 名	御 意 見	質問に対する回答など
1 岩田 亮二	<p>クラジさんが大橋さんに何を科学的検査してほしいかとたずねていたが研究者がこんな質問をするのだろうか？</p>	<p><村上委員からの回答></p> <p>蔵治委員の発言ではなく、私(村上)の発言へのご意見です。村上から回答します。</p> <p>正しい課題を設定することができなければ、いくら議論をしても稔のある結論は見出せません。私は、専門の研究者が、恣意的に争点を設定し、専門家の内輪の議論で解答を見つけたとしても、現在の長良川の問題に寄与することは少ないと考えています。</p> <p>私の発言は、漁業者としての課題は何であるのか、大橋氏の言葉で聞きたかったためです。第1回の田中氏、第2回の神谷氏の発言から、私は、飲み水の安全性への根強い懸念があることを確認しました。また、大橋氏の発言から、漁業者が、河床堆積環境を含めた系全体を視野に入れて河口域の漁業の衰退を憂いていることを知らされました。それぞれの立場から、何が問題で、どの様に解決したいかの意見を聞くことは、我々委員にとって不可欠なことだと考えます。</p> <p>幸いにも、今までのヒアリング結果は、私の課題設定と共通していました。しかし、専門家の考える重要性和、現場のそれとは異なることもあります。その場合、私は専門家としての意見を率直に述べ、議論を挑むつもりです。専門家以外の発言を軽視することも、無批判に迎合することもしません。今後とも、この意見交換の場を活用し、活発な議論が交わされることを期待します。ご協力よろしくお願いたします。(PT委員：村上哲生)</p>
2 近藤 ゆり子	<p>☆大橋亮一さんのお話は胸に迫るものがあった。</p> <p>川は「〇〇m³/sを流す水路」ではない。川の生き物は流量・流速だけで語れない。川底の態様が生態系を根底から改変する。</p> <p>☆秋田清音さんのお話。大都市の損得勘定のみで是非を語るべきではない、というのはその通りだと思う。</p> <p>その上で愛知県・名古屋市はすっきりと「損切り」をする覚悟が必要だ。——「負担分を返せ」などと口にするべきでない。</p> <p>☆平野久克さんのお話：「塩害がなくなった」のが河口堰のおかげであるという因果関係に疑問が残る。現に、河口堰下流は馬飼頭首工からの水で塩害が防がれているようだ。とすれば淡水の取水が確保できれば河口堰は不要なのでは？</p>	<p><平野氏の回答></p> <p>「塩害がなくなった」について</p> <p>長島輪中は、元来、地盤標高が低く、木曾三川河口部に位置したことから、過去の歴史の中で長い間塩害に苦しみ、その塩害を克服すべく様々な対策を講じてきました。</p> <p>長島輪中の長い歴史の中で、最初は、長良川、木曾川から樋管を通じて生活用水・農業用水を取水していましたが、河川水が徐々に塩水化し取水に支障をきたすようになり、輪中内の井戸を水源とすることに変わっていきました。その後、伊勢湾岸各地の地下水大量くみ上げによる広範囲な地盤沈下により、地下水も徐々に塩水化が進むとともに、地下水の大量くみ上げが問題となってきたことから、地下水の取水をやめて、木曾川総合用水事業により馬飼頭首工から取水する事に変更しました。</p> <p>現在は、馬飼頭首工から真水(長島輪中地下水の塩分を希釈するための水を含む)を取水するとともに、輪中の塩分を抜くために、深くて、広い排水路などを整備して、ようやく塩害を抑えている状況です。</p>
3 高木 浩司	<p>河口堰に設定された水利権の根拠となる上水・土水の需要予測と実績が、計画時点、工事着工時点、運用後それぞれどうであったのかを検証すべきである。(過大予測の修正ができなかったのはなぜか?)</p> <p>そもそもこの河口堰の事業目的は何であり、その事業効果と費用・リスク</p>	

	<p>を比較して、必要・正当な事業であったのかを検証することも必要だ。(ステークホルダーとして三重県・岐阜県は欠かせない)</p> <p>また実際上の措置として、今後ゲートの開放等によって水利、治水、それぞれの影響をどう予測・防止しつつ、運用の姿を目指すのか、が問題だと思う。</p> <p>事業開始時に、河口堰事務所長であった宮本博史氏(淀川水系流域委員会)からのヒアリングを追加すべし。</p>	
<p>4 高曽根 良博</p>	<p>長良川河口堰は、法律に基づき、木曽川水系水資源開発基本企画に従って、建設され、管理開始以来15年が経過している。</p> <p>長良川は岐阜県を主な流域として、一部愛知県域にも流れて、三重県に入り伊勢湾に注ぐ。</p> <p>関係県知事の意見を聞き、事業実施計画及び管理方針が定められている。</p> <p>愛知県知事がプロジェクトチームを設置することは、勝手であるが、知見の集約ができたとして、今後これをどのように、関係県及び国に対して、もの申していく予定が明らかにしてもらいたい。水がいないなら岐阜県内及び三重県内からの取水はやめて、県内での取水に限定すべき。</p> <p>他県の土地から水を取って、他県にある施設に口出しはつつしむべきだ。三重の県民感情が悪化するだろう。</p> <p>政治パフォーマンスもマスコミの関心はうすいようだ。</p> <p>東浦町議の意見に物申す。</p> <p>河口堰は環境破壊と税金の無駄遣と云う長良川の水を飲みたくなければ、町として水源を確保しておいしい水を飲めば良いでしょう。</p> <p>木曽川は長野県、岐阜県を流れている。愛知県が自由に使える川ではない。知多半島は天来天水しかない地域だ。</p> <p>天につばをはいている感じがした。</p> <p>愛知県知事は、徳山ダムの開発水を愛知県へ導水する導水路の建設についても検証しているようだ。</p> <p>愛知県は揖斐川に接していないので、岐阜県又は三重県地内から取水するしか方法はない。他県に物を作るには、愛知県が工事をすることはできない。不要なものなら他県に迷惑をかけるべきでなからう。</p> <p>自己中心の議論ばかりしていると、他県からキビシイ対応がされることになるでしょう。</p> <p>以前、木曽川水系の水問題で三県がゴタゴタした時もあったが、当事三県一市は運命共同体だという認識で一致し、今日までなんとか協調して来たと思う。</p> <p>知事・市長をトップに水戦争を始めるのか？</p>	<p><小島座長の回答></p> <p>長良川河口堰検証プロジェクトチームは、大村愛知県知事と河村名古屋市長の共同マニフェスト「長良川河口堰の開門調査」の実施に関して、既に長良川河口堰が存在していることを前提にして「県民にとって最適な長良川河口堰の運用のあり方について、広く関係者からの意見を聞くとともに、専門的見地からの意見の集約を行う」ことを目的としています。</p> <p>利水に関しては、22年度末まで、名古屋市は126億5000万円を負担しながら全く水を使用しておらず、愛知県は586億7100万円を負担しながら知多半島の水道しか使っていません。また、治水に関しては、愛知県は82億8000万円(ただし、割賦負担金ベース)負担しています。これらは受益の程度において負担しているわけですが、その負担が受益に対して適切なものかどうかは、税や使用料を支払っている名古屋市民や愛知県民に説明をする必要があります。</p> <p>また、このことと長良川流域全体のことを考えるということはそれぞれ両立することであって、「PT及び専門委員会の進め方」では、「岐阜県・愛知県及び三重県の長良川流域全体を視野に入れて、愛知県民及び名古屋市民の立場からの今後の長良川河口堰の最適な運用方法を提言していくこと」としています。</p> <p>ちなみに、ダムや取水口の設置場所が県内にあるかどうかということと、費用負担はどの程度かということとは、別の事柄であると考えています。</p>
<p>5 中島 一好</p>	<p>・長良川河口堰検証PT会議及び専門委員会はもう少し時間を取って内容の検討をしないと良い検証結果が出ないと思います。</p> <p>・ヒヤリングメンバーの選定として、河口堰のゲートを開けることによりどのような影響が発生するのかの説明が聞きたい。</p>	<p><小島座長の回答></p> <p>第1回専門委員会が7月14日に開催され、日程も確保されました。今後、「河口堰のゲートを挙げることによりどのような影響が発生するのか」についても検討を進めることとなります。</p>
<p>6 石黒 鏡三</p>	<p>私は戦前生まれ、戦中育ち、戦後の働きドン、黒塗り教科書で881字のカン字を教わり、15才で卒業欧米に追いつき追い越せの叱咤のもと、企業の一つの歯車としてPCBを扱い、カドミメッキ製品を熔接し、排液・排油やゴミは出したい放題、そしていつしか自然環境を破壊した。好きな魚釣りをし、獲物を食べてたのが、或る日突然大量の奇形魚が複数の魚種にまたがり釣れたのを機会に生産第一主義を反省し、以来水に関わる河川や海の自然環境修復と保全に取り組みました。</p> <p>以下に先日のヒヤリングを傍聴する機会を与えて頂き感謝の気持ちも込めて思いつき、考えた事を書き留め、送らせて頂きますが、何分にも、先の事情のごとく読み書き算数お話はさっぱりダメで読んで頂く方には忙しい中大変ご迷惑をおかけして申し訳ありませんがお許しください。</p> <p>さて私は名古屋市南西部で生まれ育ち、ズーと臨海部や海部郡一帯の河川の様子を見たり、実際に中に入って遊んだり利用したりしてきました。そんな関係で、俗に内川と呼ばれる感潮河川・築堤時に採土して掘り下げたドレン兼用の水路ではボラやマダイ、時にはサヨリやアミエビが居たり、シジミが居たし、汽水域特有で時期によって海魚の仔魚が居る所の川と田んぼがヨシの畔一本の界で米を作ってた港区の南陽町や、トビ島村の新政成や末広</p>	

地区の様子そして少し上流の大膳川・佐屋川など閉塞河川の様子も知ってきたし、庄内川や木曾三川などの大きな流れる川との付き合いもやってきました。

これらのことを踏まえて、以下に別紙により長良川河口堰に対する意見や提案を書いて送らせて頂きますのでどうぞよろしく願いいたします。

河口堰…建設位置が悪いと信念を持って反対活動をし、今現在も正しかったと自分の行動と考え方に自信を持っています。傾斜の小さい川では流れが弱く、細粒度で有機物を多く含んだ土砂や泥が堆積します堰により水流が止まれば有機物が増殖し、使いにくい悪水になることを予測してました。一斉封鎖行動日にはマイカーを持参し参加し、夕方には高水数の仮設舞台で当時の田中長野県知事と握手し、作家の手はパン生地みたい、それに比べて俺の手はコンクリートガラだと思った。この堰建設は今も反対で失敗作だから早く全面又は半分開放してはどうかと思っている。そして今は水利用の観点からすでに完成している徳山ダムの水を導水路の早期完成によって利用する事を唱えています。反対派の多くの人々は多額の事業費の投入に反対していると思う。理由に水余りを唱えるがそのきれいな水を河口堰に替えて生活用水にとどまらず、自然な河川環境や生態系の保全是元より農畜産業や内陸漁業生産など一次産業の復活で、高齢者はじめ婦女子の雇用拡大を図り、落ち込み激しい日本の経済活動復活に利用する施策をすべきと考える。

秋田さんの話…私は別の事例を紹介します、水上バイクやウィンドサーフィンをする若者がやっここ数年前から長良川を利用するようになった。しかも、水道管橋より下流へはあまり行かない。理由は長良川で遊んだあと、シャワーもなく車に乗って帰る途中から体が乾きはじめ温度が上がり汗の湿気を帯びると、妙に水苔(アオコ)くさくなるからです。最近では安価で良い防水服が出廻り気にしなくてよくなったことで馬飼方面からはみ出してきたのです。もう一件蛤養殖の件、長い年月を必要としたが、スタート切ったからの条件が悪かったと思っています。それは、私自身城南でアサリ、木曾岬でシジミを捕り乍ら気付いてたのは中電・湾岸道・港湾整備・員弁川整備、等々立て続けに大量のコンクリート打設による灰汁の流出の影響が大きかったと思っています。ここ数年前より大量打設工事がなくなり稚貝が戻ったと判断しています。H3年とH5年のシジミのへい死も長良の水が止まった事だけではないと思います。他の濁水時の時もそうした時こそ、ダム水は放流する事でダムの努めを果たすものと言いたい。また密漁の件では不心得者の出現はいつの世もどこの場所でも困ったものだ。特に残念に思ったのは、とある男性が、〇〇川の砂は盆栽用に日本一と自慢仕乍ら、体長2cmに満たない蛤の稚貝をいそいそと沢山獲ってる場に出会った事は残念。地域広報で情報発信しモラルの向上したい。

大橋さんの話…浮遊物質(SS)の増加は衛生的な生活志向教育の拡大で生活排水経路で河川水が富栄養化したうえに水の透明度が維持されてるため、藻類の大増殖が各地の河川で見られます。堰により流れが弱まり、砂泥が堆積し、その上に川苔、アオコが大発生。これが寿命がきて枯れてそれを栄養とし循環的に増殖。まとまった降雨のあった時は思い切りゲートを開けて河川の攪乱を与える度量の運用操作がほしい。シラスうなぎの遡上や鮎の降海遡上と産卵の場整備やふ化後の移送など矢作川漁協が一步進んでると思う。学ぶべきは学び応用したい。そこでもう一つ堰が直線的横断構造を改めたい。昔から川で漁をやっている人は知っている筈で、魚が時期によって昇る時、降りる時魚種によってどの辺りを通るか、どの様に障害物を作るとどうなるかを、その知恵を活かして堰の構造(特にゲートの位置)を一部変える事を識者を交え新しいゲートの在り方の検討が必要と思う。塩害防止と生命と財産を守るための河口堰(後の平野さんでもふれている)マウンドを取る事は私も勧めたい、何故ならば塩水の上面と田畑の地表が天井川でない限り塩害になりにくいし、まして田畑は粘土層の上に有り粘土層は水を通しにくい事で知られ利用されている。マウンドはどちらかと言うと沖積、堆砂である、しゅんせつにより、水深変わって水位変わらずとのこと。私なら堰ができる前のミオ筋にならってしゅんせつをする事が欠けてたのではないかと思う。ミオ筋をゲートの外迄延長干ガタの中の同じ水深の所迄すすめる事が肝要と思

	<p>ます。ゲートは上下分割可動式になってると聞いてます。一律の運用法でなく、より自然な河川の流れに近づく様ゲート操作に心掛けてほしい。</p> <p>神谷さんの話…知多浄水場以南は長良の水を上水としての事の理不尽を話された。施設としては切換可能に整備されているとのこと。私が思うに関西の淀川の水質問題と同位と思う。要は兼山の水は流路施設など用地も含め建設コスト(分子)と長良の工水の使用量(分母)の関係で政治家はじめ知多の皆さんが安い用水を選んだ結果と思う。工水と用水との金銀取引を行い水利権の転換を図ることが第一で最良の策と考える。但しそした中でも馬飼の水はすぐ近くの朝日取水口で名古屋市西半分の地域の水をとってる事を参考に馬飼水の増量をしたりしてブレンド策は得策ではないです。今は不明乍ら徳山ダムの水が成戸で木曾川へ入るなら付け替えて馬飼の水が頼れると思います。要は馬飼の水は兼山の水に近く、そんなに差はなく、名水と言われる名古屋市と同等の水が知多の人も使えるよう、長良の水はあくまでも農業・工業用水として、知多の上水は馬飼の水をといった使い分けをしたいです。</p> <p>平野さんの話…塩害発生問題の話に私は若干疑問を持った。差し絵の中に長島南端や城南地区、そして深谷地区等々の田畑の塩害は伊勢湾台風時の高汐によるもので一時的な冠水(海水の)の状況で通常渇水時はじめ潮の干満や河川堰完成後のしゅんせつによる深堀の影響と考えにくい。高須輪中の塩害を心配と言われているが高須辺りはもともと粘土質の所でしかも淡水が溜まり安い所で排水機によって通常強制排水する程、水位が高い所へ地下からの塩水の影響は考えれない。また決定的な疑問は1/4 図(写真)で畔道をはさんで上方は美田で手前はヨシが混ざってるこの極端な差は何か、私は休耕田か放置田ではないかと推測し、塩害でないと思う。海部郡南部が塩をかぶったが2年後に復活以後塩害発生してないことから地下浸透による塩害は考えにくい。また洪水対策としての河口堰による治水についても多大な効果を話されたが、私は異なる角度から判断してた。それはマウンドを削った事による流下をうながしたもので上流山間部にある雨水の貯水ダムと河口にある河口堰ダムとを同列にして観るのはいかがなものかと思った。つまり、河口堰は機能的に始めから貯水容量が小さいうえに肝心な事は日常的に高水位を保っているため、おのずと集中豪雨など一時的な大量降雨水を溜め置く機能が小さい事を忘れていませんか。平野さんは賛成の立場を強く前面に出されたものと受けとめました。木曾三川環境保全機構理事長とのこともう少し仕事の内容にふれたお話があればよかったですかと思っています。</p> <p>下手な文筆で申し訳ありません。先づはお詫びして浅学な私の意見・提言を述べさせて頂きました。PTの皆さんによりしくお伝えください。</p> <p>ありがとうございました。</p>	<p><平野氏の回答></p> <p>「塩害発生問題の話に私は若干疑問を持った。」について 長島輪中では、過去長い間、塩害に苦しみ、その塩害を克服すべく様々な対策を講じてきた中で、現在でも、なんとか塩害を発生させないように注意しながら農業を営んでいます。</p> <p>公開ヒアリングで使用した水田の塩害の写真は、平成初期に長島町横満蔵地先で実際に塩害のあった田を撮影したものです。長島町の塩害発生状況については、昭和53年5月17日付 中日新聞記事「どうなる長良川河口ゼキ⑦—塩害と沈下—」でも、写真付きで紹介されています。</p> <p>また、長良川河口堰は、毎秒800t以上の洪水時には、堰を全開し、ゲートが洪水流下の障害にならない操作を行っているので、堰で洪水を溜めるということは行いません。洪水の危険が以前に比べて小さくなったのは、長良川の川底を掘ったからです。長良川河口堰は、長良川の堰上流に塩水を入れないように川底を掘るために設けられた施設です。</p>
<p>7 石橋 年孝</p>	<p>「長良川河口堰の運用のあり方」という非常に重要で、重い判断を行うのだから、もっと時間をかけて幅広くヒアリングを行い議論するべきではないのか？その上で結論を出す時期を見据えるべきで、2回の公開ヒアリングを終えたのみで、9月末までに結論を出すという期日限定では「すでに結論ありき」で、形式的にヒアリングを行っているとは思えない。しかも、これから「専門委員会」を設置して専門の見地から広く知見を集約し整理してPTに報告する。さらにPTはこれらをまとめ報告文を作成することになっているようであるが、これだけの作業が9月末までに出来るのか。しっかり議論されたものが出来上がるとはとても思えない。</p>	<p><村上委員からの回答></p> <p>長期間の徹底した審議が必要であるとの意見に異議はない。しかし、行政より諮問された事項は、予算を通じて、施策に生かされなければ意味はない。短期間の審議であることは残念だが、次年度予算の編成期までには、蓋然的ではあっても、結論が出せる事項については、委員会は提言書を出し行政の手で予算化しなければならないし、不確実性が大きい事項についても、後継的な委員会で審議を続ける仕組みを作る必要がある。資料や審議時間の不足を理由に、結論を先延ばしすることは許されない。委員も、無理は承知の日程で努力する。傍聴者もご協力をお願いしたい。</p> <p>「すでに結論ありき」との意見についても、反論したい。委員の日ごろ発言や経歴から容易に想像がつくであろうが、あらゆる社会的な問題について、委員は中立ではない。河口堰の今後の在り方については、各委員の専門分野の知識に基づき、既に、暫定的な結論に至っているだろう。そのような将来像が描けていなく白紙のまま委員会に出てきているのならば、それは中立ではなく、物事を考えていないということだ。</p> <p>しかし、会議の中で、各委員は、暫定的な自己の結論に</p>

		<p>固執しないと信じる。委員の現在の意志は様々であろうと、客観的なデータと合理的な論理で結論を導くとの道理が共有され、過去の間違った認識を修正する柔軟性があれば、会議での合意形成は難しくないと考える。要は、審議の時間や委員の中立性の問題ではなく、道理の通った会議運営ができるかどうかの問題とされなければならない。委員会が、それができないと判断されたならば、再び叱責の声を遠慮なく挙げていただきたい。(PT 委員：村上哲生)</p> <p><小島座長の回答></p> <p>「長良川河口堰検証プロジェクトチーム設置要綱」に従って、ようやく専門委員会も発足しました。委員の方には、8月から9月にかけて集中的に日程をいただいています。スケジュールが厳しいですが、内容的にしっかりしたものとなるように努力します。</p> <p>ヒアリングで述べていただいた意見やお寄せいただいた意見は、専門的な事項が含まれておりますので、それらは専門委員会でも検討していきたいと思っています。</p>
<p>8 服部 典子</p>	<p>第二回PT会議資料1よりPT設置要綱第5条専門委員会の委員はどのような経緯で推薦決定されるのでしょうか？今までの行政の関る外部の委員は密室で決められ経歴業績そして会議の発言も明らかにされませんでした。その割りに報酬は高額(?)という噂は聞いたことがあります。この委員会はどのあたりまで公開されますか？</p> <p>委員の選出方法は河口堰の今後と同じくらい興味があります。この委員会で活躍したいと希望している学識経験者に立候補してもらうとか、また推薦にするならその理由(誰がどんなところを評価して推薦したか)を明確にしてほしい。</p>	<p><小島座長の回答></p> <p>専門委員会の委員は、PTメンバーに一人ずつ推薦をお願いし、知事のご了承を得て、愛知県に委嘱手続きをしていただきました。PTメンバーは、座長であり、愛知県政策顧問・名古屋市経営アドバイザーである小島以外は、愛知県在住(自宅又は職場)の大学の先生で、長良川河口堰についてこれまで行政と仕事をした経験がある方とそうでない方をお願いし、知事のご了承を得て、愛知県に委嘱手続きをしていただきました。</p>